

平成26年度

施策評価マネジメントシート(平成25年度の実績評価)

記入年月日

平成 26 年 6 月 19 日

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	生活安全課	主管課長名	大関 輝夫
403	施策名	交通安全対策の推進	関係課	建設課、学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	交通安全に あわない、起 こさない	・市民、市内の道路利用者(車両運転者・歩行者) ・市内道路	①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,469	42,920	41,897
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449	43,826				
②市内道路延長(国道、県道、市道)			km	見込値			1,627	1,634	1,635	1,636	1,637	1,638	
				実績値	1,627	1,627	1,626	1,626	1,621				
				見込値									
				実績値									
成果指標設定の考え方	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	交通安全に あわない、起 こさない	①市内の交通事故発生件数(人身)	件	目標値			178	169	160	152	145	137	
実績値				197	187	148	150	131					
②市内の交通事故死者数		人	目標値			0	0	0	0	0	0		
			実績値	1	7	1	4	3					
③市内の交通事故負傷者数		人	目標値			235	223	212	201	191	182		
			実績値	266	247	202	198	181					
		目標値											
		実績値											
成果指標設定の考え方	○交通事故に遭わず、起さなければ、①交通事故発生件数、②③交通事故による死傷者数は減少すると考えた。												
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○市内の交通事故件数等は桜川警察署資料から												

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと) ○事故にあわない、起こさないために、交通ルールを守る。(運転者及び歩行者等) ○地域の自主的な取り組みにより、交通安全意識を高める。 ○酒を飲んだら絶対に車に乗らない。酒を飲んだら乗らせないを徹底する。 ○交通安全母の会、交通安全協会、安全運転管理者協議会等、各種団体において交通安全運動を推進する。	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) ○交通安全施設の整備を図るとともに、警察署や学校、地域の関係団体と連携し、市民の交通安全意識の高揚に努める。 ○交通安全施設(信号機、横断歩道、カーブミラー、ガードレール)の整備を図る。
	状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか? ○通学中の小学生に対する重大事故により道路整備が懸案事項となっている。通学路整備に対する調査。ガードレールや縁石の設置により、歩道・車道の分離が求められる。 ○13歳未満の子どもと70歳以上のおとしりの自転車走行については歩道を通ることができる。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①交通安全意識の向上	市民、市内の道路利用者	交通事故にあわない、おこさない	事故発生件数(人身)	実績値	187	148	150	131			
				件							
②交通安全施設等の整備	市内の道路	危険箇所を解消する	事故発生件数(物損)	実績値	733	728	801	753			
				団体							
③			整備箇所数	実績値	79	111	117	88			
				件							
				実績値							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	24年度実績	25年度実績	26年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	9	9	9
②施策事業費(一般財源以外)	千円	0	4,509	4,305
③施策事業費(一般財源)	千円	10,894	5,943	7,004
④施策事業費の計(②+③)	千円	10,894	10,452	11,309
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	9,251	10,164	9,449
⑥計(④+⑤)	千円	20,145	20,616	20,758

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
事務事業	交通安全指導事業	H25貢献度上位、H26優先度上位
事務事業	交通安全啓発事業	H25貢献度上位
事務事業	交通安全施設整備事業	H25貢献度上位

施策番号	403	施策名	交通安全対策の推進	主管課	生活安全課
------	-----	-----	-----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・市内の交通事故(人身事故)発生件数は、21年度197件から減少傾向であるが、24年度150件から25年度は131件と19件減少した。また、高齢者の関係する交通事故も24年度55件から25年度35件と大幅に交通事故が減少している状況である。</p> <p>・交通事故負傷者数は、21年度266人から減少しており、24年度は198人、25年度は181人と減少している。</p> <p>・死亡件数は、25年度で3件発生し、24年度より1件減少した。25年度死亡件数3件のうち高齢者の死亡事故は2件であった。</p> <p>・市としては交通安全施設の整備や交通安全教室等を開催している。警察署では取り締まりの強化、交通安全団体では交通安全のキャンペーンや立哨活動による交通安全への意識啓発事業に取り組んでいるが、高齢者の事故防止が大きな課題である。</p> <p>・交通安全施設の設置は、25年度は市内全域で区画線設置10ヶ所・ガードレール11ヶ所・転落防止柵4ヶ所・街路灯設置2基・カラー舗装4ヶ所・標識設置4基・支線誘導標1ヶ所・車両進入防止柵2基・カーブミラー設置29基の整備を行った。</p>		

1)-②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①市内の交通事故(人身事故)発生件数は、25年度目標160件に対し、131件と目標を大きく上回っている。</p> <p>②市内の交通事故死亡者数は、25年度目標0に対し3人(そのうち高齢者が2人)であり、24年度より1人減少。発生場所はすべて岩瀬地区であり、国道50号に交わる道路で3件起こった。また夕方の道路横断中で起こり反射材を付けていなかったため、反射材の着用促進を進める必要がある。</p> <p>③市内の交通事故負傷者数は、25年度目標212人に対し、181人であり、大きく上回っている。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・人口1万人当たりの交通事故発生件数は、桜川市29.89件(県内39件)であり、筑西市は39.03件、笠間市が38.08件となっており、国道50号で結ばれる近隣市の中で、桜川市だけ良い数値を表している。しかし、交通死傷者数(1万人当たり)は、桜川市は0.68人(県内14位)であり、筑西市は0.95人、笠間市は0.51人と筑西市に次いで高く悪い数値となっている。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか、その他の特徴は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・桜川市の現状として、JR水戸線およびタクシー・デマンドタクシー以外の公共交通機関がないため、自家用車を使用しなければ生活が成り立たないというライフスタイルから、市民の交通安全対策に対する期待水準は高いと思われる。</p> <p>・総合計画(後期)策定時におけるアンケート調査(23年3月)から、この施策は優先度も満足度も平均より高く、重点維持項目にある。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・25年度は、「車両を利用する人のうち、高齢者や成人」「歩行者のうち高齢者・幼児・児童・生徒」と「市道」を重点対象に、「交通安全意識を啓発する」、「危険箇所を解消する」を重点意図として事務事業を行った。</p> <p>貢献度評価から今年度貢献した事務事業は、「交通安全指導事業」、「交通安全啓発事業」、「交通安全施設整備事業」、「市交通対策協議会運営事業」であった。</p> <p>・「交通安全指導事業」は、交通安全教室を内の小中学校16校、保育所・幼稚園10施設、高校1校、福祉作業所、そして高齢者向けに3地区で交通安全教室を実施したほか、高齢者向けの交通安全教室として、『高齢者交通安全輪投げ大会』及び『高齢者交通安全グランドゴルフ大会』なども開催した。</p> <p>・「交通安全啓発事業」は、交通安全出陣式を始めとして、春、夏、秋、年末各季の交通安全運動期間時に、市交通対策協議会構成団体である交通安全協会役員、交通安全母の会役員、安全運転管理者協議会役員が市内交通要所で街頭キャンペーンを行った。また、期間中市内交差点数カ所において、民間交通指導員による街頭立哨を実施、その際に反射材の啓発活動も併せて行った。年間を通して防災無線・交通指導車を使用した広報活動を行った。</p> <p>・「交通安全施設整備事業」は、交通事故の防止、抑制のため、交通事故が多い場所や危険箇所交通安全施設を設置した。また交通安全施設で壊れた個所の修繕を行った。路面標示、カーブミラー、ガードレール、交通標識、区画線、街路灯などの設置修繕に取り組むほか、カーブミラーの角度調整などを重点的に実施した。</p> <p>・「市交通対策協議会運営事業」は、関係機関団体と緊密な連絡をとり、交通安全指導事業・交通安全啓発事業等の計画・推進を図った。また、交通安全関係団体への助成・提案を行い、交通安全協会参画事業、交通安全母の会運営事業、安全運転管理者協議会運営事業を効果的に推進した。25年度は、高齢者の運転免許返納支援事業が始まり、26人の免許返納者に対してデマンドタクシー券や運転経歴証明書交付手数料の支援を行った。また反射材着用促進を重点的に実施した。(高齢者対策事業での反射材着用促進、街頭キャンペーンでの配布、市民祭でオリジナル反射材作成や民間交通指導員による薄暮時の立哨での反射材配布など)</p> <p>・その他の事務事業として、自転車二輪自動車商協同組合の協力を得て、自転車通学をしている小・中学生の自転車1,272台の点検を行っている。また交通安全大会を開催し、交通安全ポスター表彰や関係交通団体の表彰を行いアトラクション(H25反射材効果実演)を実施した。H26.1月2日と立て続けに交通死亡事故が発生したため緊急対策会議を開催、緊急街頭立哨や、のぼり旗での立哨活動、また交通団体独自の取組みを行った。</p>
-------------	---

8. 今後の課題と方針

区分	今後の課題	今後の方針
施策全体	<p>・高齢者の交通事故が増えていることから、高齢者の交通事故対策として高齢者交通安全教室の充実を図る必要がある。</p> <p>・薄暮時の道路横断により交通死亡事故が発生していることから、反射材の着用促進が急務である。</p> <p>・道路整備に伴うスピード超過による無謀運転への対策や携帯電話の使用による漫然運転を防止する必要がある。</p>	<p>・交通事故から市民の尊い命を守るため、交通安全施設の整備や安全な道路環境の形成に努めるほか、市民一人ひとりの交通安全に対する意識の啓発に努めます。</p> <p>・高齢者をはじめ、各世代における各種交通安全教室の充実を図ります。</p> <p>・警察署や交通安全団体と連携し、交通安全のキャンペーンや立哨活動による交通安全への意識啓発に取り組みます。</p> <p>・通学路における危険箇所の把握とともに、重大事故を未然に防ぐための危険箇所の解消や交通安全施設の整備を図ります。</p>
基本事業	①交通安全意識の向上	<p>・交通事故防止のため広報活動や街頭キャンペーンを実施して交通ルール・マナーの向上など交通安全の意識啓発を行います。</p> <p>・子どもや高齢者の交通安全知識の向上のため、交通安全教室を実施していきます。</p> <p>・高齢者の運転免許自主返納に対して支援を行います。</p> <p>・反射材の着用促進に努めていきます。</p>
	②交通安全施設等の整備	<p>交通安全施設や車道・歩道を整備し道路の危険箇所を解消するとともに、施設の保守点検に努め交通事故防止を図ります。</p>